

# コロナ禍における公開講座の実践事例を通した一考察

田中 雅章<sup>1</sup> 田村 禎章<sup>2</sup>

Email: Tanaka.m@humanitec.ac.jp

ユマニテク看護助産専門学校<sup>1</sup> ユマニテク短期大学<sup>2</sup>

◎Key Words : 公開講座、ICT 教育、エクステンション・カレッジ、生涯学習

## 1. はじめに

日本で新型コロナウイルスの陽性患者が確認されたのは2020年1月15日で、中華人民共和国湖北省武漢市から帰国した男性だった。その後、陽性患者の発生がおさまることは今なおない。新型コロナに感染すると死に至るような恐ろしいウイルスと知られておらず、しかも爆発的に患者が増加するとは考えられていなかった。

この「パンデミック」とも言える状況では正常な社会経済活動を行うのは不可能であった。2020年度は大学も講義さえままならない状況であり、公開講座を実施することができなかった。2021年はICTを活用することでオンライン公開講座を実施することができた。本稿では2021年の前期オンライン公開講座の実施結果を報告する。

## 2. A大学における公開講座

A大学の公開講座の半数以上は語学コミュニケーションが中心である。その他にはキャリアアップとライフサポートの3部門で構成されており、5~7月の前期と10~12月の後期の年に2回の実施をしている。

2019年度は前期に77講座、後期に74講座の1年間で151講座を開講した。のべ受講者数は前期に1,014名、後期に899名の1年間で1,913名が受講した。男女比では男性34.7%、女性が65.3%と女性の方が多い。年代別では50代以上が70.1%を占めている。2020年度は新型コロナのため全ての講座や講演会を実施することができなかった。

2021年度は講師と受講者の健康と安全を確保するため、ICTを活用したオンライン講座のみで再開することになった。前期は例年の半数以下の36講座を計画し、4月1日から4月15日までオンラインのみの受付となった。応募者数が5名未満の講座は不開講となり、実施することができた29講座の215名が受講した。

2021年度前期の受講者数が2019年度の前期と比較して21.2%に減少した。受講生の減少理由が講座数が減ったこと、対面講座がオンライン講座になった以外にもあるのではないかと予想された。

また、オンライン講座のために、4月から講座開始の5月第3週目まで、受講者のためのヘルプデスクが設けられた。ヘルプデスクはオンライン講座初心者のために4月中にオンライン講座の受講サポートサービスが実施された。

## 3. 2021年度前期の実施結果

2021年度の前期講座実施後の8月5日から31日まで受講者に向けたメールアンケートを実施した。期限内に82名の回答があり、回収率は38.1%であった。

公開講座を知ったきっかけを表1に示す。全体の75%はこれまで継続して受講してくれた人々である。25%は

新規の受講者である。中にはオンライン受講により、東京、兵庫、福岡などの遠方の受講者が10名おり、全員が語学コミュニケーション系の受講者である。

表1 講座を知ったきっかけ

回答内容	2021年春	2019年秋
前回からの継続	74.9%	64.7%
Web、パンフレット、ポスター	16.3%	20.6%
新聞等の広告	0.0%	3.3%
講師や受講者等の紹介	7.5%	9.7%
その他	1.3%	1.7%

オンラインによる受講で良かった結果を表2に示す。通学するための感染リスクの回避や移動時間の節約が約70%とほぼ同数で多かった。

表2 オンラインによる受講で良かった内容(複数回答)

回答内容	2021年春
感染リスクの回避	70.9%
移動時間の節約	69.6%
受講時の体力省力化	21.5%
オンライン受講の挑戦	19.0%

2019年度の受講者名簿1,054名から無作為に352名を選び、8月27日から9月1日の期間に電話インタビューを実施した。その内、120名と会話ができた。2021年の講座に申し込まなかった理由を尋ねることができた。表3に電話インタビューの結果を示す。最も多い理由は、新型コロナの影響で生活環境が変化し、受講する時間がなくなったのが51名(42.5%)と最も多い。その他に通信環境がないので対面講座を希望する、希望する講座がないが、ほぼ同数の理由だった。

表3 2019年受講者への電話インタビュー

回答内容	人数	割合
対面講座を希望	26	21.7%
希望する講座がない	24	20.0%
受講する時間がない	51	42.5%
検討中	12	10.0%
申込済み	7	5.8%

## 4. まとめ

大学の公開講座は地域の社会人に向けて生涯学習の場を提供する目的で実施する地域の社会貢献活動である。大学の責務として、できる限り公開講座は継続すべきと考える。当初、受講者の減少理由として、対面講座ができないために講座数が半減したことや受講者にオンライン講座の受講準備やPC操作を強いることであると予想していた。調査の結果、受講者が減少した一番の理由は新型コロナによって受講者の生活環境が変化し、受講する時間が取れなくなったなどの環境の変化が主要因であることがわかった。今後の大学の公開講座は対面とオンラインの併用に進むことが示唆された。